



《教育長メッセージ 第73号》

『新型コロナウイルス感染症』

私たちは、自然に抗うことはできません。

自然災害や新たな病気・感染症には、その被害を防止するための備えや対応を行うことはできても、その発生を防ぐことは難しく、ある意味、受け入れるしかないようです。

抗うことはできません。

昨年末、中国の武漢で新型コロナウイルス感染症の感染がはじまり、1、2月には、日本でも感染するケースが広がり、横浜に寄港したクルーズ船内での感染が連日ニュースで取り上げられました。

そのような状況で、私の頭の中は、市内の小中学校でどのような感染症対策をするか、そして、教職員と共通理解を図り、保護者の理解を得て、年度末まで運営していかなければということではいっぱいでした。

そして、忘れもしない、2月27日。

その日の午前中に、政府の新型コロナウイルス感染症対策基本方針を受けて、どのように学校教育活動を行っていくか、臨時の校長会議を開いて、対応策を検討・協議し、明日から感染症対策を徹底して、学校を継続することを共通理解しました。

しかしながら、夕方、政府から3月2日から春休みまでの学校の臨時休校の要請があったのです。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止には、この2週間が大きなカギを握るという専門家の見解があり、私は市長とも協議し、児童生徒の生命と健康・安全を守ることを最優先に、海老名市立小中学校の春休みまで臨時休業とすることを決めました。

28日は、午前中に、臨時の教育委員会を開き、臨時休業を決定し、その後、昨日に引き続き、臨時の校長会議で、学習支援や進路指導の対応、卒業式・修了式の方法、感染があった場合の対応、教職員の勤務などについて対応策を話し合いました。

期間中に、校庭開放を行い、卒業式や修了式は、感染症対策を徹底して行いましたが、年度末の、学年のまとめの大事な3月、子どもの姿は学校にありませんでした。

その後、臨時休業期間中は、さまざまな対策を進めながらも、学校（校

長会)と何度も話し合いを重ね、4月、新年度、学校再開に向けての準備を進め、3月25日、保護者に、4月5日から海老名市立小中学校を再開することを文書で周知しました。

4月、新学期はスタートしたものの、ご承知のように、政府から「緊急事態宣言」が発令され、4月、5月と学校は臨時休業となりました。

そして、6月から学校が再開され、「新たな生活様式」による学校教育活動が、今も続いているところです。

実は、6月の再開は、学習指導要領の内容を履修するために必要な授業時数を確保するには、ぎりぎりのラインでした。

そして、さまざまな学校教育活動が中止や縮小を余儀なくされました。

この間のことをふり返ると、どうでしょう。

その時々への対応にふり回され、自分の判断が正しかったのかと、考えさせられます。

ひとりひとりの子どもの学びの保障はできていたのか。

学校や教職員への支援、学校外で子どもたちにかかわる学童保育クラブなどへの支援は、十分にできていたのだろうか。

新型コロナウイルス感染症対策は、まだまだ、続きます。

私は、あらためて、子どもたちや教職員の生命と健康を守るために、子どもたちの学びや生活を守るために、よく考え、よく話し合い、適切に判断し、冷静に、教育施策を推し進めなければならないと、自らに職責をかめるのです。

この秋に行われた、各学校の運動会・体育祭での子どもたちの輝きは、これまでと変わらず、むしろ例年よりも煌めいていると感じさせられたところです。

次回も、『新型コロナウイルス感染症Ⅱ』として、私の思いや考えを述べてみたいと思います。